

## HCU 開設 1 年を迎えて

HCU 主任 仲岡 智美



2017年6月にHCUが開設され1年を迎えました。開設に至るまでスタッフ一同、新たなユニットを担う期待と不安を抱えつつ、体制構築に向けICUへ院内留学し、人工呼吸器管理や動脈ラインの取扱いを始め、救急入院患者の初期対応や術後管理など重症患者のアセスメントを学びました。

フロア内の物品や電子機材が徐々に整備され、具現化する過程にスタッフと共に関わったことは大変貴重な経験になりました。

HCU開設後の1年で転入591名、転出732名の患者に携わり、外来から173名の直接入院を担いました。

平均在室日数は3日前後で稼働しており、目まぐるしい患者の入れ替わりの中で、質の高い看護実践の提供を目指しスタッフ一同、日々奮闘しております。

主な対象患者は、緊急入院、全身麻酔手術後、一般病棟で管理が困難な状態の急性期・周術期治療、ICU経過後の患者など様々です。

今後も「ER」-「ICU」-「HCU」-「救急病床」-「一般病棟」-「地域包括ケア病棟」-「訪問看護」の連携を図り、患者・家族が安心して療養できる環境を整えていくよう努めてまいります。



## 災害支援ナース ～ 豪雨被災地での活動報告 ～

災害支援ナース 3N病棟 宇都野 未紀



2018年7月に西日本豪雨災害が発生し、県内全域における予期せぬ被災状況に自然災害の怖さを思い知りました。2017年12月に、災害支援ナース登録後、今回初めて西予市野村町の避難所に派遣され3日間の支援活動を経験しました。

実際の災害現場で自分に何ができるのか、緊張と不安を抱えながらでしたが、健康相談やエコノミークラス症候群、熱中症、感染症の予防など日常生活指導を主に行いました。



携わった被災者の方々は、被災状況も生活背景や抱える問題も様々で傾聴の中で返答に困る場面

も多く、改めて「支援」の難しさや傾聴の大切さを感じました。

同時に情報収集や観察力・アセスメント力の重要性を再認識でき、日々の看護を振り返る機会になりました。

災害発生から2週間以上経過しての派遣でしたが、変わり果てたままの景色と避難所で続く被災者の方々の生活状況を通して、時間経過と共に変化する支援の在り方など貴重な体験をさせていただきました。今後も災害看護の知識を深め、この経験を「看護」に活かせるよう努めてまいります。

